

9. Ogawa E, **Furusyo N**, Murata M, et al.
Early phase viral kinetics of chronic hepatitis C patients receiving telaprevir-based triple therapy: A comparison of two real-time PCR assays. Antiviral Research 99 (2): 119-124, 2013
10. Ogawa E, **Furusyo N**, Nakamuta M, et al.
Clinical milestones for the prediction of severe anemia by chronic hepatitis C patients receiving telaprevir-based triple therapy. Journal of Hepatology 59 (4): 667-674, 2013
11. Kainuma M, **Furusyo N**, Murata M, et al.
The effectiveness of traditional Japanese medicine (Kampo) in combination with pegylated interferon α plus ribavirin for patients with chronic hepatitis C: A pilot study. Journal of Traditional Medicine 30 (3): 132-139, 2013
12. **Furusyo N**, Ai M, Okazaki M, et al.
Serum cholesterol and triglyceride reference ranges of twenty lipoprotein subclasses for healthy Japanese men and women. Atherosclerosis 231(2): 238-245, 2013
13. Ogawa E, **Furusyo N**, Nakamuta M, et al.
Telaprevir-based triple therapy for chronic hepatitis C patients with advanced fibrosis: A prospective clinical study. Alimentary Pharmacology & Therapeutics 38 (9): 1076-1085, 2013

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし。

7. 学校教育における肝炎ウイルスの感染予防教育プログラムに関する研究

研究分担者 渡部基（北海道教育大学）

研究要旨

すべての国民が受ける権利を保障されている義務教育が修了する中学生を主な対象として、肝疾患に対する正しい知識を習得し、肝炎ウイルス感染者等に対する差別・偏見を払拭できるようにするための「青少年のための肝炎ウイルスの感染予防教育プログラム」を試作した。本プログラムは、中学校理科における肝臓に関する学習状況や B 型及び C 型肝炎の予防に関する医療講演等で収集されたデータに基づき、7 項目にわたる学習内容から構成され、PC とタブレットの両方に対応したウェブベースのプログラムである。学校の授業で利用することも想定し、教員がユーザー登録することにより、教師用ページ等も利用することができる設計となっている。教員用のページには、生徒が回答を選択した段階ですぐに集計して、正解を示す前にグラフで表示させ、生徒同士の意見交流の場面を設けること等も可能である。今後は、本プログラムをより汎用性が高く、効果的なものにしていくために、多くの授業実践のフィルターを通すことが必要である。そのためには、ページの運用管理に伴う経費の措置等の後に一般公開するとともに、適切なリンク依頼を行う等、積極的な周知活動を行うことが重要となる。

A. 研究目的

すべての国民が肝炎に関する正しい知識を習得することにより、肝炎ウイルスの感染を予防し、肝疾患の早期発見・早期治療を促すとともに、その患者や感染者に対する差別を払拭することは重要である。そのため、教育、職場、地域といった各方面への正しい知識の普及啓発が期待されているが、とりわけ、学校の児童生徒に対するそうした知識の普及啓発が十分とはいえない。そこで、本研究は、すべての国民が受ける権利を保障されている義務教育が修了する中学生を主な対象として、肝疾患に対する正しい知識を習得し、肝炎ウイルス感染者等に対する差別・偏見を払拭できるようにするための健康教育プログラムを試作することを目的とした。

B. 研究方法

学習内容に選定に当たっては、中学校理科における肝臓に関する学習状況、肝炎に関する各種のウェブページの情報、B 型及び C 型肝炎の治療や予防に関する医療講演等の内容を収集した。さらに、中学生における肝炎の知識に関する認識度を調査した。対象は、北海道教育大学附属札幌中学校全学年 377 名で、当日欠席した者 7 名を除いた 370 名（男子 49.7%、女子 50.3%）を解析対象とした。調査の実施に当たっては、中学校側から保護者会で事前に説明するとともに、全保護者に対して、研究協力の依頼文書を送付した。一定の周知期間を経て、全保護者からの特別の申し立てがないことを確認した上で、保健体育の時間に、体育館で中学校の保健体育教員が調査を実施した。調査は、2013 年 7

月 11 日～18 日の間に、自記式無記名の質問紙調査を用い、事前に作成した調査実施マニュアルに基づいて、調査内容、注意事項、回収方法の説明が行われた。調査票の記入は、お互いの間隔を 2m 以上あけて離れるように座った上で一斉に行われ、記入された調査票は、回答者自身がシール付きの封筒に入れて密封して回収された。

C. 研究結果

こうして収集されたデータ等に基づいて、中学校教員とともに検討した結果、学ぶべき基礎的な学習内容を 1) 肝臓の位置、2) 肝臓の役割、3) 肝臓がんの割合、4) 肝がんの原因、5) B 型及び C 型肝炎ウイルスの感染者の推計、6) B 型及び C 型肝炎ウイルスに感染したときの症状、7) B 型及び C 型肝炎ウイルス感染経路の 7 項目とした。それらの内容を原則として問答形式で再構成し、近年、教育分野での ICT (Information and Communication Technology) 利活用が推進されていること等を踏まえて、PC とタブレットの両方に対応したウェブベースのプログラム「青少年のための肝炎ウイルスの感染予防教育プログラム」を試作した。このプログラムは、学校の授業で利用することも想定し、教員がユーザー登録することにより、教師用ページ、生徒用ページ、グラフ表示用ページを生成する設計となっている。生徒用ページと教師用ページは連動しており、教師用ページでは、生徒が回答を選択した段階ですぐに集計して、正解を示す前にグラフで表示させ、生徒同士の意見交流の場面を設定することも可能である。また、グラフ表示用ページでは、各問題の回答結果を集計したグラフを一括して示すこと

もできるものとなっている。

D. 考察

本プログラムを試作するにあたっては、中学校の教員に最終的な内容を確認してもらったり、漢字にフリガナをふったりする等、主として中学生が自分自身で学ぶことができるように配慮してきた。したがって、一般公開した場合でも、中学生のみならず、成人にとってもわかりやすいものとなることが期待できる。本プログラムをより汎用性が高く、効果的なものにしていくためには、多くの授業実践のフィルターを通すことが必要である。ページの運用管理に伴う経費の措置等の後に一般公開するとともに、適切なリンク依頼を行う等、積極的な周知活動を行うことが重要となる。そうした積み重ねにより、本プログラムを利用した指導案や教員用のマニュアルの作成へとつながると思われる。

今回の展開方法の工夫としては、コンパクトに内容をまとめること等を目指して、問答形式を主に採用した。問答形式は、知識の習得には一定の効果を示すが、肝炎ウイルス感染者等に対する差別・偏見の払拭といった態度形成においては、必ずしも十分とは言えない。例えば、討論形式の採用等も考えられるが、ウェブページでどのような構成にすれば、より効果的な授業運営が可能となるのか、さらに検討する必要がある。

一般的に、ウェブページには、他のページとリンクを張ることによって、ウェブ上の情報をダイナミックに行き来することができるという特性がある。ウイルス肝炎に関するページは、成人が読むことを前提としたと思われるものが多く、中学生が自分自身で学ぶこと

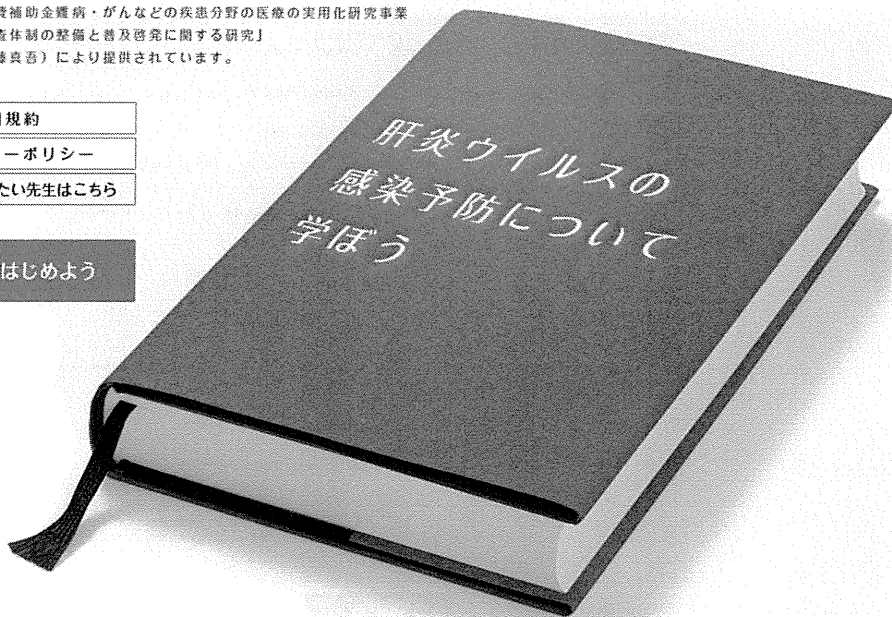
を想定した本プログラムの中には十分にリンクを張ることができなかった。しかし、一般公開して中学生以外の成人も閲覧する可能性があることを考慮すると、中学生という発達段階を踏まえつつ、リンクを増やしていくことも検討していくべきであろう。

青少年のための肝炎ウイルスの感染予防教育プログラム

このプログラムは、
厚生労働科学研究費補助金難病・がんなどの疾患分野の医療の実用化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」
(代表研究者：加藤貞吾)により提供されています。

利用規約
プライバシーポリシー
授業で使ってみたい先生はこちら

[▶ 学習をはじめよう](#)



[トップページ](#)

青少年のための肝炎ウイルスの感染予防教育プログラム

ご利用規約

青少年のための肝炎ウイルスの感染予防教育プログラム（以下、本サイトといいます）は厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の実用化研究事業「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」（代表研究者：加藤貞吾）が運営しております。本ウェブサイトを利用される前に以下の利用条件をお読みいただき、これらの条件に同意された場合のみ、本ウェブサイトをご利用ください。

1. リンク

本サイトは基本としてリンクフリーですので、ご自由にリンクを設けていただいても構いません。リンクを設定する際は、お名前、ご連絡先（E-mail、住所、電話番号等）、リンクを設定するウェブサイトのURLをご連絡ください。ただし、ウェブサイトの内容やリンクの方法によっては、リンクをお断りすることがございますので予めご了承ください。

2. 著作権その他の権利について

本サイトに掲載された全ての内容に関する権利は研究班に帰属します。本サイトの題意内容の無断使用・複製・引用を固く禁止します。

3. 免責事項

本サイトに掲載されている情報、または本サイトを利用することで発生したトラブルや損失、損害に対して、研究班は一切責任を負いません。なお、研究班は理由の如何に関わらず、情報の変更および本サイトの運営の中断または中止によって生じるいかなる損害についても責任を負うものではありません。また、研究班は、本サイトにリンクしている他のいかなるウェブサイトの内容にも責任を負いません。

4. 規約の更新

研究班は、利用条件を予告なしに変更することがございます。

制定日： 年 月 日
難病・がんなどの疾患分野の医療の実用化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」班
研究代表者 加藤貞吾

[戻る](#)

厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の実用化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」（代表研究者：加藤貞吾）

利用規約

青少年のための肝炎ウイルスの感染予防教育プログラム

プライバシーポリシー

厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の実用化研究事業「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者：加藤真由) (以下、研究社といたします) は本サイトのご利用者 (以下、ユーザーといたします) のお名前・メールアドレス・所属団体・電話番号・お問い合わせ等の個人情報の保護に関し、以下に記載する取組みを実施しております。

1. 研究社は、個人情報に関する法令及び、その他の規範を遵守し、ユーザーの大切な個人情報の保護に万全を尽くします。

2. 研究社は、ユーザーの個人情報については、下記の目的の範囲内で適正に取り扱いたします。

研究社は、ユーザーが本サイトにアクセスする際自動的に取得するデータ及び、登録フォームに入力する際に個人情報をお聞きしたり自動的に入手したりします。

研究社が取得する個人情報は、本サイトのサービスに必要なものに限られています。

本サイトはユーザーのIPアドレス、クッキー情報やユーザーが閲覧したページ、ユーザーの利用履歴などの情報をユーザーのブラウザから自動的に受け取り、サーバーに記録します。

研究社はこうした情報を大きく分けて以下の4つの目的で利用します。

- (1) ユーザーが本サイトのページを利用しやすいように改善するため。
- (2) 機能を改善にお知らせするため。
- (3) 必要に応じてユーザーに連絡するため。
- (4) 利用状況や利用履歴などに関する調査を実施するため。

なお、上記利用目的の他、サービス・アンケート等により個別に利用目的を定める場合があります。

3. 研究社は、ユーザーの個人情報を適正に取扱うため、管理体制の整備を行うとともに、個人情報への不正アクセスや個人情報の漏失、毀損、滅失及び、漏洩等防止に関する適切な措置を行い、個人情報の保護に努めます。

4. 研究社は、ユーザーから承諾を得ている場合を除き、第三者にユーザーの個人情報を提供、または開示しません。

5. 研究社では、ユーザーの個人情報の保護を図るために、また、法令その他の規範の遵守に対応するために、プライバシーポリシーを改定する事がございます。

制定日： 年 月 日

難病・がんなどの疾患分野の医療の実用化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者：加藤真由)

戻る

厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の実用化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者：加藤真由)

プライバシーポリシー

青少年のための肝炎ウイルスの感染予防教育プログラム

プログラムお申込みページ

プログラム開始までは5ステップです。
是非、ご参加ください。

ユーザー登録 ▶ 登録内容の確認 ▶ 登録完了 ▶ プログラム専用URLのメール通知 ▶ プログラムにアクセス

下記のフォームにご記入のうえ、「内容確認」ボタンを押してください。
全ての項目にご記入ください。

団体名	<input type="text"/>
区分	<input type="radio"/> 小学校 <input type="radio"/> 中学校 <input type="radio"/> 高等学校 <input type="radio"/> その他
学年	<input type="radio"/> 1年 <input type="radio"/> 2年 <input type="radio"/> 3年 <input type="radio"/> 4年 <input type="radio"/> 5年 <input type="radio"/> 6年
姓	<input type="text"/>
代表者名	<input type="text"/>
メールアドレス	<input type="text"/>
希望日	<input type="text"/>

内容確認

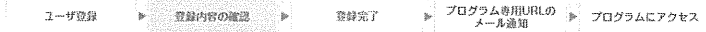
厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の実用化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者：加藤真由)

登録画面

青少年のための肝炎ウイルスの感染予防教育プログラム

プログラムお申込ページ

プログラム開始までは5ステップです。
是非、ご参加ください。



下記の情報で登録します。
ご希望のうえ、「申し込む」ボタンを押してください。
回答用ページのアドレスがメールで送信されます。

団体名	テスト
区分	小学校
学年	1年
組	1組
代表者名	テスト 太郎
メールアドレス	test@test.jp
希望ID	test

厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の実用化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者：加藤真吾)

内容確認

青少年のための肝炎ウイルスの感染予防教育プログラム

プログラムお申込ページ

プログラム開始までは5ステップです。
是非、ご参加ください。



お申込が完了しました。

プログラム専用URLがメールで送信されます。

厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の実用化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者：加藤真吾)

完了画面

OPERATION MENU

ログイン

ユーザIDおよびパスワードを入力し、ログインボタンを押してください。

ユーザID :	<input type="text"/>
パスワード :	<input type="password"/>

ログイン

リセット



WindowsのInternet Explorerより、JavaScriptを有効化してご利用ください。
ログイン後15分以上画面が遷移をしないタイムアウトとなり、自動的にログアウトされま
す。
attention この場合、もう一度この画面からログインしてください。

管理者用ログイン画面

OPERATION MENU

ユーザ名:hid管理者【hidadmin】

[メインメニューへ](#)

[前のページに戻る](#)

メインメニュー

登録ユーザー

一覧表示
登録ユーザーを一覧表示します。
ユーザー個別の集計結果も閲覧できます。

一覧表示

回答結果

全体の回答結果表示
全ての集計を表示します。

結果表示

回答結果CSV出力
回答結果をCSVでダウンロードします。

CSVダウンロード

[メインメニューへ](#)

[前のページに戻る](#)

管理者用メインメニュー

OPERATION MENU

ユーザー管理管理者 [hidsadmin]

ホームメニュー

前のページに戻る

登録ユーザー一覧

登録されているユーザーの一覧です。

戻る 12件中 1件目から10件目まで表示 次

ID	団体名	代表者名	メールアドレス	結果表示
tanaka	本輪西小学校 4年 ほし組	細川 麗	tanaka@dosanko.co.jp	変更
tanaka2	港北中学校 3年 3組			変更
doukou	道幸 1年 2組	どうこう	doukou@dosanko.co.jp	変更
sss	道幸2 1年 s	s	doukou@dosanko.co.jp	変更
aaa	道幸2 1年 s	s	doukou@dosanko.co.jp	変更
ardasd	aaa 2年 aa	どうこう	doukou@dosanko.co.jp	変更
afaf	aaa 4年 aaa	aaa	doukou@dosanko.co.jp	変更
doukoumenabu	札幌市立 あああ中学校 2年 3組	道幸 学	doukou@dosanko.co.jp	変更
doukououkou	どうこう団体 1年 A	道幸まなぶ	doukou@dosanko.co.jp	変更
1	3 1年 1	1	taka-ko@dosanko.co.jp	変更

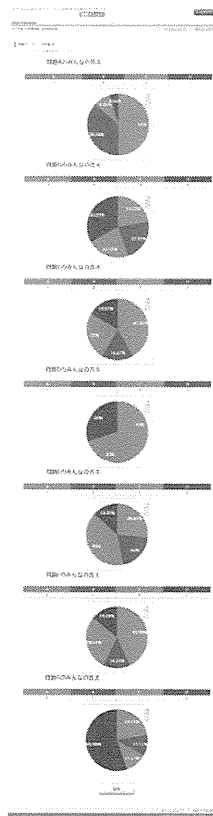
戻る

ホームメニュー

前のページに戻る

©COPYRIGHT © 2010 HIBI- Co.LTD. All Rights Reserved.

登録ユーザー一覧



回答結果のグラフ一覧 (全ユーザー分)

青少年のための肝炎ウイルスの感染予防教育プログラム

プログラムにご参加いただき、ありがとうございます。
本プログラムを是非ご活用ください。

[ユーザー登録](#) ▶
 [登録内容の確認](#) ▶
 [登録完了](#) ▶
 [プログラム専用URLのメール通知](#) ▶
 [プログラムにアクセス](#)

ホームページ公開用 1年公開用様



厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の実用化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者：加藤貞尚)

教員用トップ画面

青少年のための肝炎ウイルスの感染予防教育プログラム

あなたが選択したデータの表示結果です。

問題Aのみんなの答え

A	B	C	D
0	0	0	0

問題Bのみんなの答え

A	B	C	D
0	0	0	0

問題Cのみんなの答え

A	B	C	D
0	0	0	0

問題Dのみんなの答え

A	B	C	D
0	0	0	0

問題Eのみんなの答え

A	B	C	D
0	0	0	0

問題Gのみんなの答え

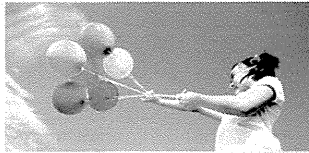
A	B	C	D
0	0	0	0

厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の実用化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者：加藤貞尚)

回答結果のグラフ一覧 (クラス分)

はじめに

本プログラムは、青少年が肝炎に関する正しい知識を学ぶことにより、肝炎ウイルスの感染を予防し、その感染者や患者の方々にたいする偏見や差別をなくすことを目的としています。きちんと学ぶことにより、こうした病気に対する偏見や誤解に苦しんでいる人々を支えていく社会の一員となりましょう。

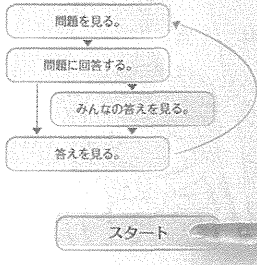


1

プログラムの流れ

あなたは、肝炎ウイルスの感染予防に関して、どのくらい知っていますか。各問題に答えながら、学んでいきましょう。

問題に答えると、ほかの人がどんな答えをしたか、グラフで確認することもできます。このページの下の「スタート」ボタンを押してはじめてみましょう。」



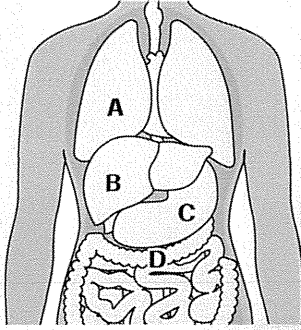
2

厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の高度化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者：加藤典典)

生徒用 1～2

問題A

下の図の中で、「**肝臓**」はどこでしょうか。



3

答え

下記の選択肢から正しいと思うものを選んでください。

A
B
C
D

こたえあわせ

4

厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の高度化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者：加藤典典)

生徒用 3～4

問題A

下の図の中で、「^{かん}肝臓」はどれでしょうか。

5

問題Aの答えと解説

答えは **B** です。

^{かん}肝臓は、強く大きい臓器で、腹部の右上に位置し、重さは成人で1～1.5 kgと体重の約1/50に相当する人体最大の臓器です。

また、高い再生能力があり、全体の8割程度切り取られたとしても、自らを修復する力があり、半年後にはもとの大きさに回復することができます。

一方で、この高い再生能力により、病気などで機能が少し低下してきても自覚症状が出にくく、自分では気がつかないことが多いのです。そのため、「沈黙の臓器」とも言われています。

6

厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の実用化研究事業
 「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者：加藤真吾)

生徒用 5～6

問題A

下の図の中で、「^{かん}肝臓」はどれでしょうか。

5

問題Aのみんなの答え

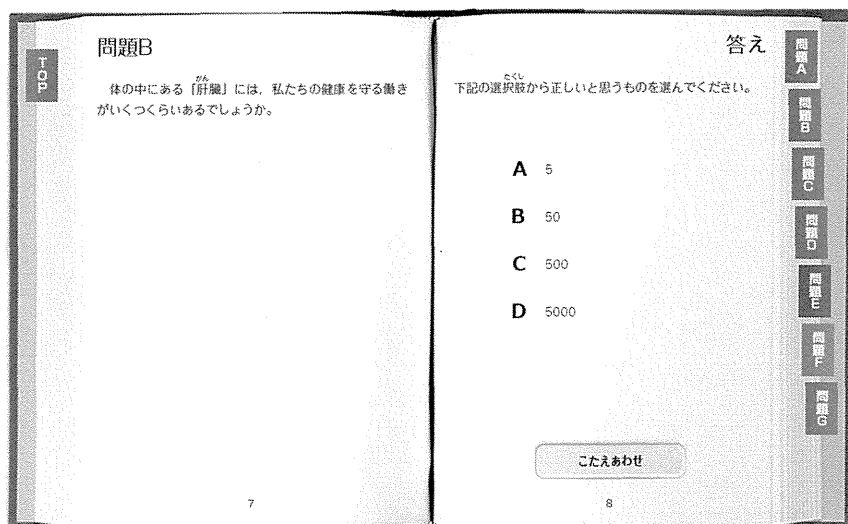
A	B	C	D
0	0	0	0

● A
 ● B
 ● C
 ● D

6

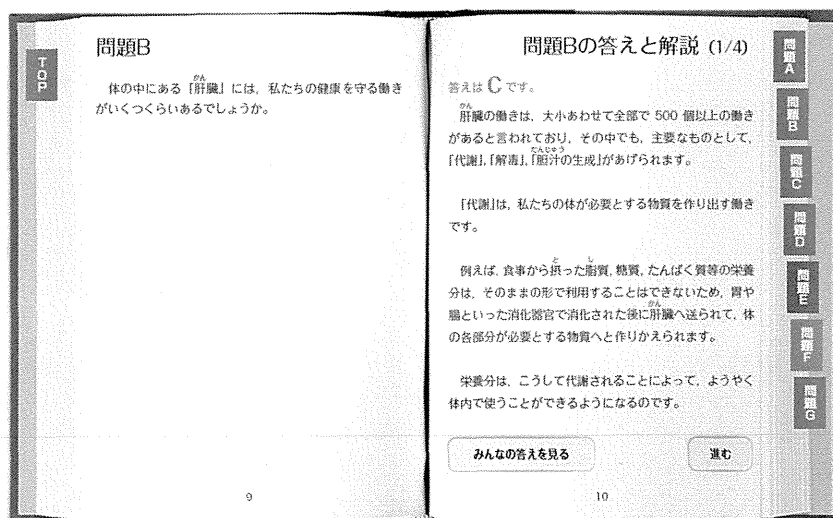
厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の実用化研究事業
 「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者：加藤真吾)

生徒用 5～6 (グラフ表示)



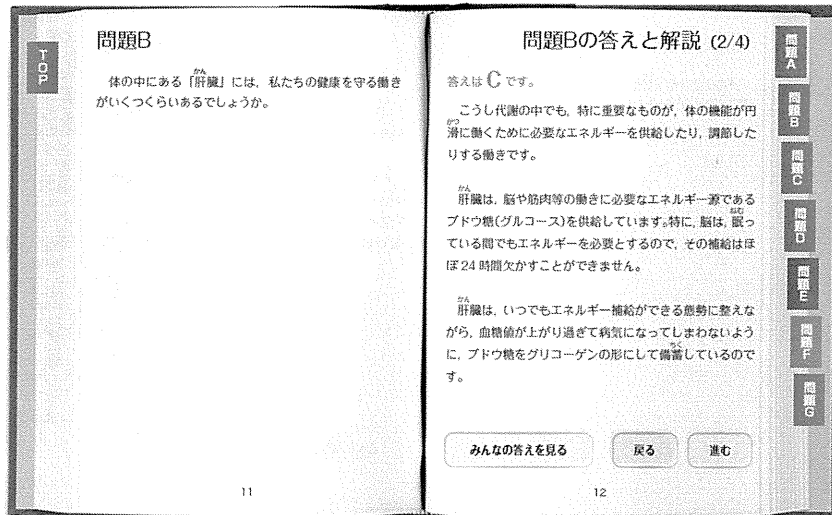
厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の高度化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者：加藤真壽)

生徒用 7~8



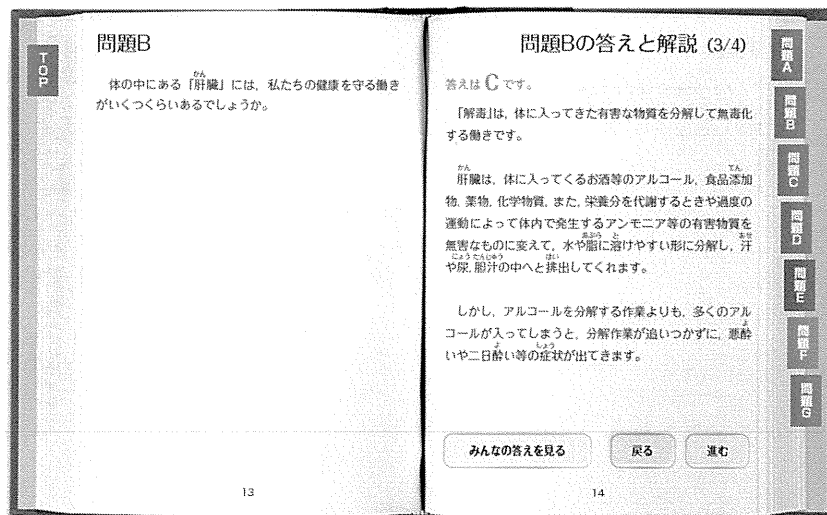
厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の高度化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者：加藤真壽)

生徒用 9~10



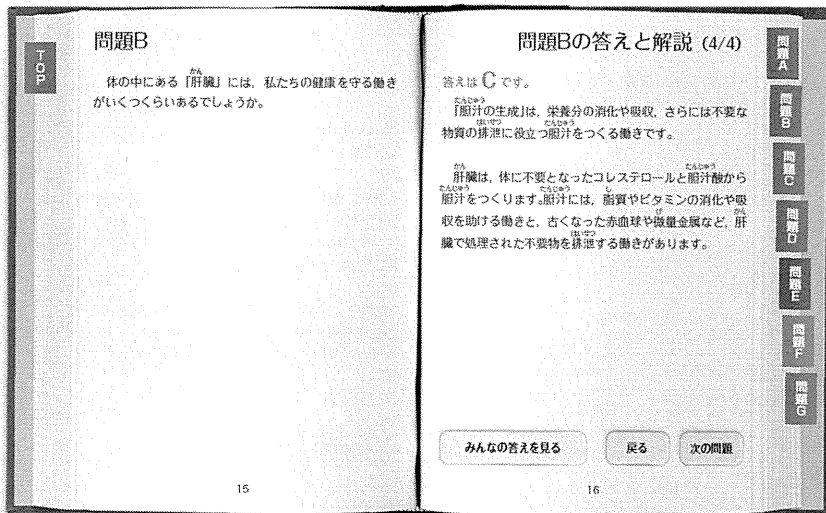
厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の高度化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者：加藤真吾)

生徒用 11～12



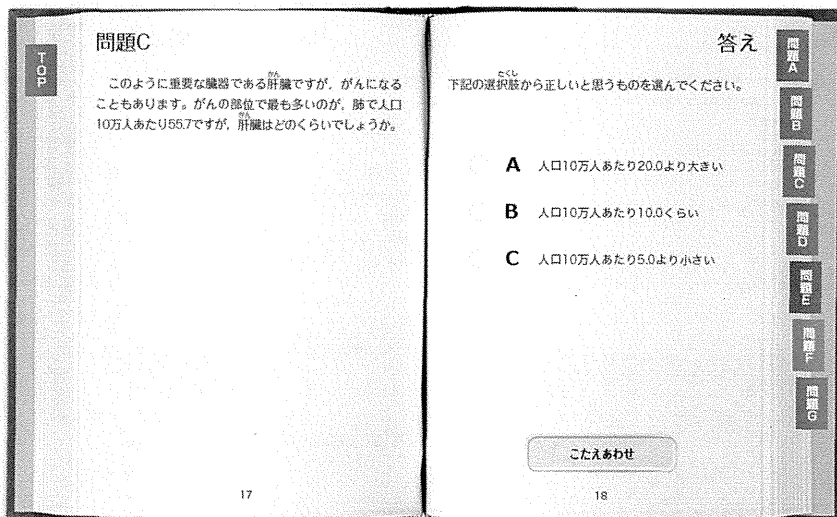
厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の高度化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者：加藤真吾)

生徒用 13～14



厚生労働科学研究補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の高度化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究員:加藤真樹)

生徒用 15～16



厚生労働科学研究補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の高度化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究員:加藤真樹)

生徒用 17～18

問題C

このように重要な臓器である肝臓ですが、がんになることもあります。がんの部位で最も多いのが、肺で人口10万人あたり55.7ですが、肝臓はどのくらいでしょうか。

問題Cの答えと解説 (1/2)

答えは **A** です。

平成23年で、胃がんが人口10万人あたり39.5、次いで、肝臓がんが25.3となり、肺がん、胃がんに次いで多いものです。

平成23年 悪性新生物の主な部位別死亡数・死亡率(人口10万別)

部位	男	死亡数	死亡率	女	死亡数	死亡率
胃	32776	53.3	17041	26.3		
肝臓	20965	34.1	10902	16.8		
肺	50767	82.6	19505	30.1		
大腸	24855	40.4	12730	19.7		
			子宮	6071	9.4	
			大腸	20879	32.3	

みんなの答えを見る 進む

19 20

厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の高度化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者:加藤真吾)

生徒用 19~20

問題C

このように重要な臓器である肝臓ですが、がんになることもあります。がんの部位で最も多いのが、肺で人口10万人あたり55.7ですが、肝臓はどのくらいでしょうか。

問題Cの答えと解説 (2/2)

答えは **A** です。

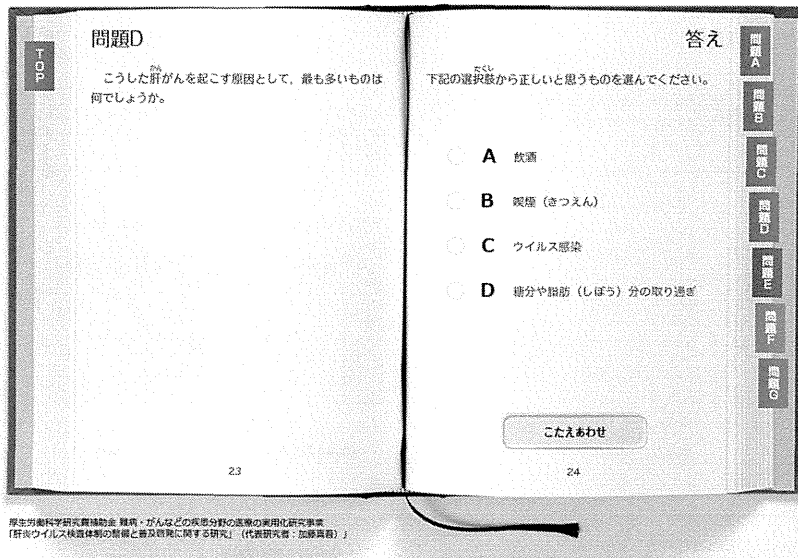
悪性新生物の主な部位別死亡率(人口10万別)の年次推移

みんなの答えを見る 戻る 次の問題

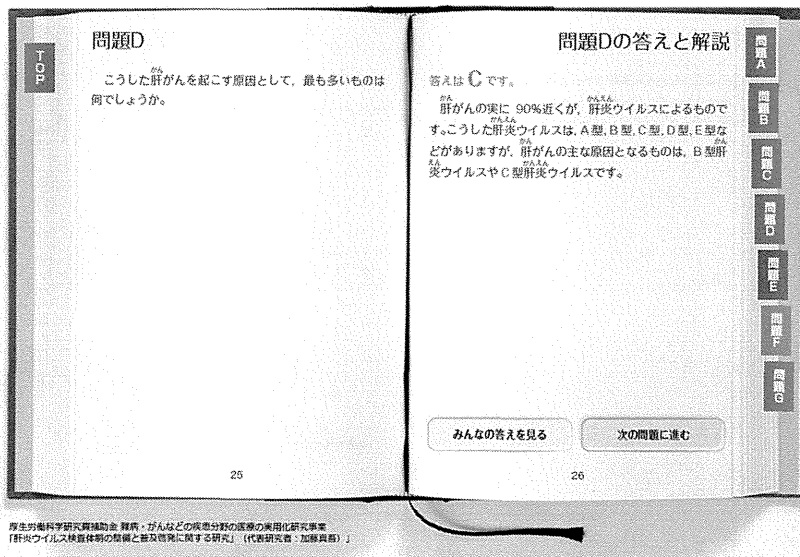
21 22

厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の高度化研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者:加藤真吾)

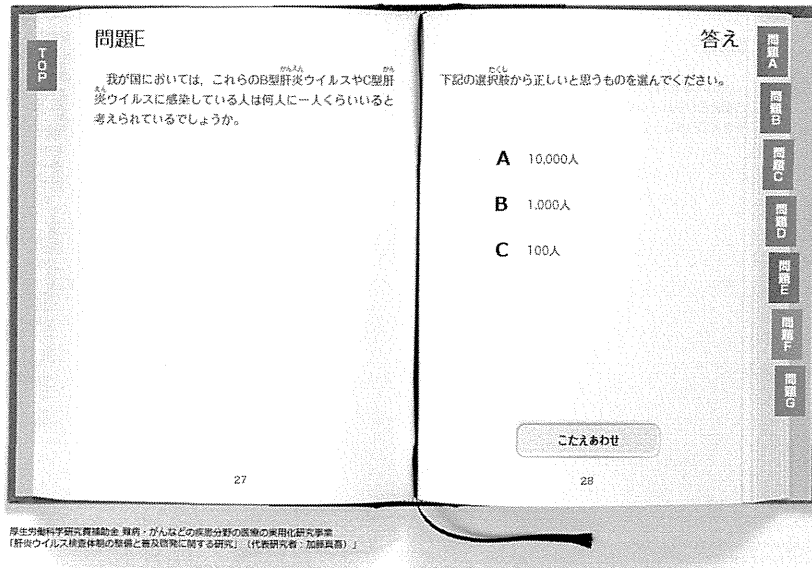
生徒用 21~22



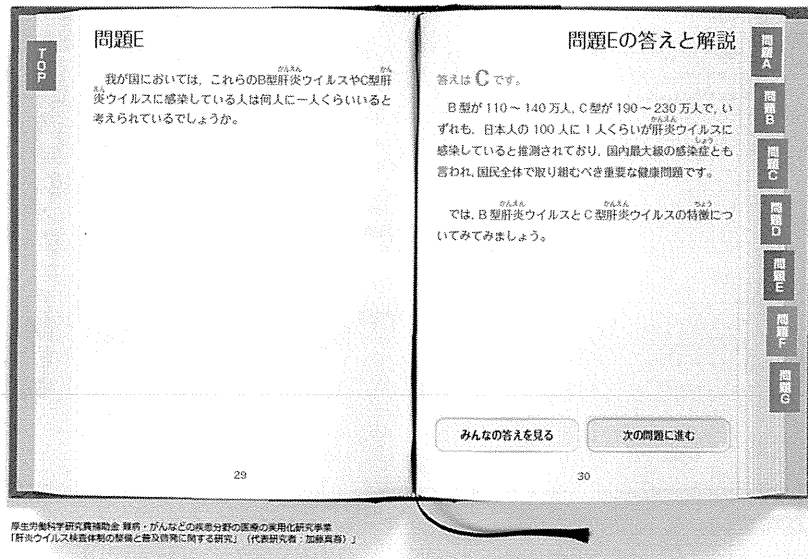
生徒用 23～24



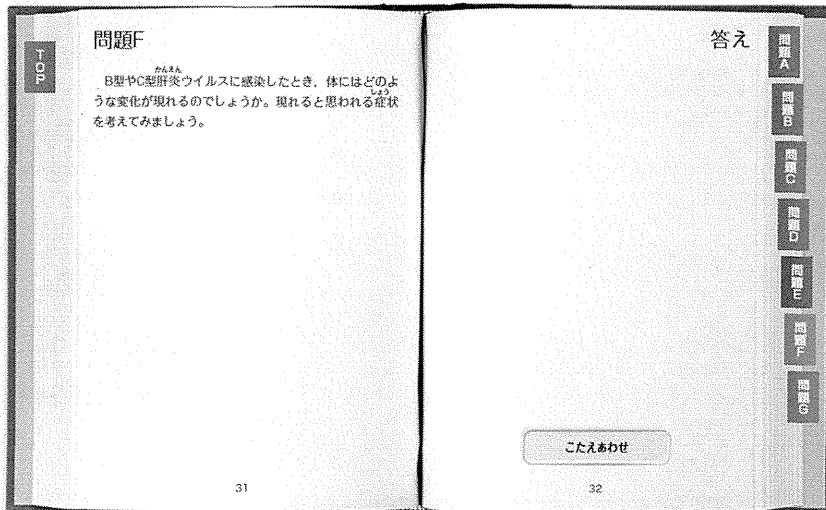
生徒用 25～26



生徒用 27～28

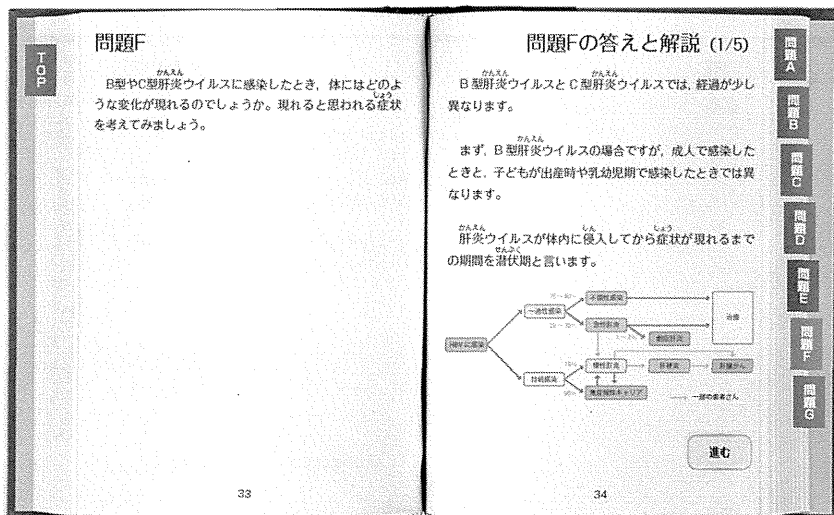


生徒用 29～30



厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の高度化研究事業
 「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者：加藤典壽)

生徒用 31～32



厚生労働科学研究費補助金 難病・がんなどの疾患分野の医療の高度化研究事業
 「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」(代表研究者：加藤典壽)

生徒用 33～34

問題F

B型やC型肝炎ウイルスに感染したとき、体にはどのような変化が現れるのでしょうか。現れると思われる症状を考えてみましょう。

問題Fの答えと解説 (2/5)

成人で感染したときは、多くの場合、1～3ヶ月間程度の潜伏期間の後、一時的に黄疸、倦怠感(全身のだるさ)、食欲不振、吐き気等の症状が出ますが、1～2ヶ月で治ります。感染しても自覚症状が特に現れない場合があるため、本人が感染していることに気づかないこともあります。まれに、重症化して死に至ることや、その後も感染が持続することもあります。

子どもが出産時や乳幼児期に感染したときは、その後ほとんど生涯にわたって感染が継続しますが、自覚症状のないまま過ごすことが多いです。そのうち、10人に1～2人程度の人では慢性肝炎になったり、さらに肝硬変、肝がんへと進行したりする人もいます。

戻る
進む

原発的科学研究費補助金 腫瘍・がんなどの疾患分野の高学術的実用化研究事業
【肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究】(代表研究者: 加藤良典)

生徒用 35～36

問題F

B型やC型肝炎ウイルスに感染したとき、体にはどのような変化が現れるのでしょうか。現れると思われる症状を考えてみましょう。

問題Fの答えと解説 (3/5)

次に、C型肝炎ウイルスの場合ですが、2～14週間程度の潜伏期間の後、3割程度の人は、一時的に食欲不振や吐き気等の症状が出ますが、1～2ヶ月で治ります。残りの7割程度人は、その後ほとんど生涯にわたって感染が継続します。長期間にわたって自覚症状のないまま過ごすことが多いのですが、およそ20年で3～4割程度の人肝硬変になり、中には、肝がんへと進行する人もいます。

戻る
進む

原発的科学研究費補助金 腫瘍・がんなどの疾患分野の高学術的実用化研究事業
【肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究】(代表研究者: 加藤良典)

生徒用 37～38